

たいじょうほうしん 帯状疱疹

夏から秋に変わる今の時期は、ぎっくり腰や寝違えなど、特に変わったことはしていないのに急に発症したり、はっきりとした原因がないのに体調を崩しやすい時です。

帯状疱疹も、その中の一つで、神経痛と思いついで治療が遅れる場合があります。早期発見・早期治療がポイントとなる疾患のため、この病気の事を知識として知っておきましょう。

帯状疱疹とは？

帯状疱疹は、水ぼうそうを起こすウイルスと同じ「水痘(すいとう)・帯状疱疹ウイルス」によって起こる病気です。帯状疱疹と水ぼうそうは、発症する年齢によって呼び方が変わります。

子どもの頃 → 水ぼうそう
大人 → 帯状疱疹



原因

- ・ 疲労や過労による**免疫力の低下**
- ・ 大きな**ストレス**
- ・ けが、病気、手術
- ・ 免疫抑制剤の使用
- ・ 高齢化

症状の経過

痛み 皮膚がチクチクするような感じ

赤い発疹 痛みを感じた場所

水ぶくれ

かさぶた

治癒 約3週間～1ヶ月

症状は
片側
だけ！

※ ほとんどの場合、皮膚の症状と共に痛みもなくなります

痛みが消えない場合は「帯状疱疹後神経痛」の疑いが

皮膚症状が回復しても痛みだけが残る、いつまでも続く場合があります。これを「**帯状疱疹後神経痛**」といいます。この痛みは、絶え間なく続く場合もあれば、あいたが開くこともあります。夜間に悪化する場合や、寒暖の差でひどくなることもあります。

若い人の場合は、ウイルスによって破壊された神経の回復は良好ですが、高齢者では回復が困難で、帯状疱疹後神経痛が残りやすいといわれます。

帯状疱疹後神経痛に決め手となる治療法は確立していないため、早く治療して痛みが記憶として残らないようにすることがポイントです。

他人にうつる可能性

帯状疱疹が他人にうつることは、あまりありません。

※ 水ぶくれの中に原因となるウイルスがいて、水ぼうそうにかかったことがない人には移る可能性もあります。

水ぶくれが治るまで、水ぼうそうにかかっていない赤ちゃんや子ども、妊婦には接触しないほうがよいでしょう。

再発の可能性

通常では、一度かかると免疫力がついて再発することはほとんどありません。

しかし、免疫力が極度に弱ったときには、再発する人もごくわずかにいます。

再発させないために、**栄養**と**睡眠**を十分にとり、**規則正しい生活**をすることが大切です。

検査・診断

問診と視診で済む場合が多いです。

体の片側だけに帯状の痛みが現れることが手掛かりとなる。 ※ ごく初期で水疱が現れる前には、診断するのは難しい。

初期の診断は早期の治療開始につながり、軽い症状で済ませるためには重要です。また、帯状疱疹後神経痛を残さないためにも大切です。

治療薬

- ・ 抗ウイルス薬
- ・ 消炎鎮痛剤